

約3,500年前

（縄文時代後期） 浅川牧遺跡



現和中学校浅川牧遺跡見学会の様子

発掘調査の様子

土器に地域の特徴

土器には作られた地域でそれぞれ特徴があり、同じ種類や特徴の土器が発見された地域では、人々の交流があったと考えられており、土器の広がりは、当時の人々の交流の広がりを示しています。縄文時代後期（約3,500年前）において、鹿児島を代表する交流の広がりを示す土器が市来式土器です。



浅川牧遺跡から出土した市来式土器

県営ほ場整備事業に伴い、昭和五十四年・五十五年に、鹿児島県教育委員会が発掘調査を行い、縄文時代後期（約3500年前）の、土器片、石斧・磨石・敲石・石皿などの石器類、軽石製品などが発見されました。土器片は市来式土器や一湊式土器とよばれる土器が主に発見されました。市来式土器は鹿児島県を中心として長崎県の五島列島や沖縄県をはじめ九州各地で発見されている土器で、かなり広い地域で使われていたことがわかつております。当時の人々が活発な活動をおこなっていたことがわかります。また、大量の磨石・敲石・石皿が発見されたことも大きな特徴で、木の実などの植物を主に食べていたことを物語っています。また、浅川牧遺跡からは、鹿児島県内では初めて、一湊式土器とともに竪穴住居跡が発見され、縄文時代後期（約3500年前）の生活跡を知る貴重な遺跡となりました。